

水環境・湖沼(1) (1-B-9-1~1-B-10-2)

本セッションでは、筆者によるミニレビューと講演5件が発表された。

ミニレビューは、(1)最近の研究から、(2)湖沼水質改善に向けて、という内容で行われた。前者では、*Limnology & Oceanography* 誌2006年第1巻パート2 (Eutrophication of Freshwater & Marine Ecosystems という特集名)の中から4件の論文が紹介された。後者では、湖沼水質保全計画の策定、流出水対策地区における対策に関して意見が述べられた。

「霞ヶ浦における栄養塩類の分布特性」では、2005年6-12月、霞ヶ浦13地点での水質変化とその解析結果が紹介された。特に、嫌気的な条件下での水質変化に関して質疑応答が行われた。

「北浦における *Microcystis* 属による藍藻ブルームの時空間的分布と物理化学的因子の関係」では、*Microcystis* 属の種構成と栄養塩濃度に関する仮説が紹介された。実験的な手法による検証が期待される。

「琵琶湖北湖における鉛直方向の長期水質モニタリング」においては、琵琶湖での近年における水温上昇、DO飽和度の低下等が報告された。気候変動とあわせての解析が望まれる。

「A time series approach for extracting internal and external conditions affecting water quality changes in Lake Biwa」では、琵琶湖での29年間のデータを統計解析し、その時間変動特性を統計的に整理した結果が報告された。スペクトル解析などを組み合わせて、さらに理論的な解析が期待される。

「印旛沼流域の排出負荷量および水質の経年変化」では、昭和15年からの印旛沼への排出負荷量変化推定結果が紹介された。その試みは価値があるとしても、原単位、流域特性などの推定においてさらなる精度向上が必要との意見が出された。

(筑波大学大学院・生環 福島 武彦)